

---

報告者名	高倉 浩樹	被調査者生年	①未確認(男)
調査者名	高倉 浩樹	被調査者属性	①中浜小学校校長
補助調査者	兼城 糸絵		

---

#### 被調査者(主な聞き書きは話者①から)

- \*話者② 生年未確認(男)、中浜小学校教諭
- \*話者③ 生年未確認(女)、中浜小学校教頭

#### さかもと大好き鎮魂祭(第2回)

2012年11月17日夕方、坂元中学校において、地域住民有志(吉田和子実行委員長)による企画された「さかもと大好き鎮魂祭」(第2回)が開催された。このイベントでは、キャンドル・ジュンさんが代表を務める「love for NIPPON」による演出で100本のロウソクがともるステージが整えられ、子どもによる民俗芸能実演、メッセージ花火の打ち上げが行われた他、日本社会情報学会の災害情報支援チームによる出張写真返却会も行われた。中学校の校庭は駐車場として使われ、そこが満杯になるほどで会場には200人ぐらいの参加者があり、かなり大々的案催し物となった。会では山元町長も挨拶にきていた。このなかで中浜小学校で学校教育プログラムとして行われている中浜子ども神楽が披露されるため、調査を行った。これまで中浜神楽をみたことがなかったので、子ども神楽とはいえ、実演をみたのは大変興味深かった。なお、イベントが始まる前には午前中と午後に分かれて「復興見学祭」と称する、被災地の現況および復興状況を見学する会も模様されたという。

#### 子ども神楽と保存会

この催し物については、これまで話を聞かせてもらっているTKさんから情報をもらった。16時少し前に会場に到着すると、中学校の中には車の誘導をするボランティアらしき人が何人もたっており、大掛かりなものであることを伺わせた。会場となったのは、校舎と校庭の間に設けられた屋外ステージで、大変なにぎわいだった。会場でTKさんと再会し、子ども神楽のメンバーが控えている体育館の控え室に案内してもらった。中浜神楽保存会のTKさんなど3人が来ていた。同様に小学校の校長や教員2名が引率、加えて子どもの両親と思われる大人(女性)も数人いた。そこで着替えたあと、調査者の我々が全員に紹介された。保存会の人びとの顔は優しく、こやかで、子どもたちに教えてときの雰囲気のようなものを感じることができた。また学校の先生達との協力関係もしっかり構築されているように感じられた。

#### 中浜小学校校長からの聞き取り

このなかで中浜小学校の校長から聞き取りをすることができた。彼によると、平成22年度(2010年度)までは4年生の総合学習の時間をつかって子どもたちに中浜神楽に取り組んでもらったという。この時には中浜神楽保存会から2人が講師として手伝ってくれた。1人は津波で犠牲になったTさんである。もう1人もTさんであるが、彼は父親も保存会で活動している。津波によって太鼓や衣装・横笛が流された。残ったのは学校の体育館の倉庫にあった大太鼓だけだった。当初はこれもながされたと思った。地震後1週間ほどしてから、探査作業をおこない、大太鼓をみつけた。今日の子ども神楽で使うのは、その太鼓である。太鼓をたたいていると、神楽を復活につなげたいという思いになる。自分が思うには、伝統の芸能(中浜神楽)は子どもだけでなく大人にとっても心



写真1 控え室の中浜子ども神楽の団員たち



写真2 ステージに行く前の中浜子ども神楽



写真3 坂元ダイスキ鎮魂祭での山元町長挨拶



写真4 舞いと笛で構成される中浜子ども神楽

のよりどころになっていると思う。保存会の人たちの思い入れも強く感じている。

### 地域と学校行事

震災以前から、こども神楽は地域と学校が一緒になってとりくんできた。山元町で行われる初春のホッキ祭り(山元町産業振興課)や秋のけんこ祭り(教育委員会支援事業で中浜小学校 PTA が主催?)でこども神楽は定着した演目であった。現在は、中浜小学校は坂元小学校の場所をかりて存続しており、来年には統合される予定である。こうしたなかで中浜らしさとは何かと考える上で子ども神楽は重要だと考えている。現在は3年生から6年生のが総合的な学主の時間でやっている。2つの学校が同じ場所にあるといっても、授業は同じ形で行われるので、中浜小の子どもたちだけの時間というのとれない。それで現在は、教務主任と相談して、中浜のこどもは中浜こども神楽を、坂元小のこどもは坂元おけさと鼓笛隊のどちらかをやるという形で運営している。

### 学校の中の神楽

昨年度はこの時間を10時間とった。いろいろ工夫しながらやっている。以前は4年生以上だけだったが、3年生に繰り下げた。踊りの見せ方にしても、前の列にたつのは経験のある子ども、後ろは始めの子どもという風になっている。一昨年の秋の運動会で子ども神楽を発表できた。自分としてはこれで「復活できた」と考えている。その後、町から催事に声がかかるようになった。

(その写真は以下の URL を参考。 <http://www.nakahama.myswan.ne.jp/topics/111008kagura.html>)

流された衣装の復活については、校長である自分が「作戦」を考えた。さまざまな支援がはっていたので、それを使ってそろえることは可能だった。しかしそれでは地域の活動にならないとおもった。それで仮設住宅にくら

しているおばあさんに衣装を縫ってもらおうことを考えた。夏休み前の話である。そして秋の運動会に間に合ったわけである。袴は坂元神社の宮司のSさんに寄付してもらった。10着ぐらいある。「地域全体で作りあげる神楽を大事にしたい」というのが自分の考えである。

#### 関係者との出会い

16時10分には鎮魂祭がはじまった。そこで子ども神楽を觀賞した。開会の挨拶では、山元町長の齋藤俊夫さんが挨拶をしたが、その後保存会のTKさんから紹介をうけた。町長さんは中浜出身で、TKさんの同級生だという。自分が中浜神楽を調べていると挨拶すると、神楽が「脳裏に焼きついている」と感情をこめて言ったのが印象的だった。

その後さらに学校の教員で、神楽を担当しているK先生にも挨拶をした。彼によれば現在3~6年生までの24人が総合学習の時間をつかって練習している。一時中断したが、平成19年に校長が復活させたという。来年度については中浜小学校は坂元小学校に統合されるが、それでも中浜神楽は残す方向で検討している。坂元おけさと平行してカリキュラムに残すということである。